

**Question :** 都市計画や都市デザインの領域でショッピングセンター (SC) が話題にされることが多いのですがなぜでしょうか？

**Answer** 施設の性格から、駅から遠く一般市街地から離れて田園地帯などに立地する例も多いため、街の連続性がないことや、商業活動の特性から恒久的な施設になりにくいこと。広大な施設や駐車場がヒューマンなスケールを超えるケースが多いこと。さらには既成市街地の商店街などと対立的な活動となり易いことなどが問題にされるのです。

この商活動の形態はすでに1920年代のアメリカに現れています。60年にはカナダに遊園地やホテルを複合した巨大施設ができ、モータリゼーション化していく社会とともにわが国にも上陸したのです。その最初は65年沖縄のプラザハウスSCだと言われますが、69年には玉川高島屋が開店しています。

しかし都市の計画やデザインの領域で特に話題になったのは80年代以降日米構造協議などからの規制緩和で、大規模小売店舗法（大店法）が廃止され、大規模小売店舗立地法（大店立地法）がこれに変わったことから増大したのです。現在5万平方メートルを超える店舗は全国で130店舗を超える勢いです。しかし以後都市計画や都市デザインの見地からの検討も多くなるようになり、2006年まちづくり三法が改正されることによって、1万平方メートル以上の店舗は場所によって建設抑制されるに至っています。



また最近ではこうしたSCと地元商店会との連携や、SCに福祉的な要素を複合させる企画や、仮想的になりがちな施設を在来の建築と区別してストック型とフロー型に位置づける観方も現れています。

親しみやすさを欠いた単なる巨大な箱がとかく問題視されますが、こうした施設こそ生活に結びついた新しい建築の型として都市デザイン上のテーマとすべきでしょう。なお、ショッピング・センターとモールの呼称は国によって異なるようです。



## 事務局だより

8月末で第4期が終了し、この号が発刊される9月はすでに第5期に入っています。10月23日(土)には定例総会が予定されているため、事務局としては決算や予算を始めとする総会資料の作成に忙しい時期です。第4期はその前期にくらべて事業収入がかなり少なく、厳しい決算内容になってしまいました。NPO法人というのは収益団体ではありませんが、最小限の黒字を維持するために、第5期の予算は管理費をはじめとする固定費を大幅に削減しなければならなくなりそうです。事務局長/八木健一

本号より、広告掲載企業に限定して『景観文化』本編を100部単位で有償にてお分けできることになりました。広告掲載申込時に必要部数をお申し付け下さい。掲載企業のメセナ活動・営業等にお役に立てれば幸いです。『景観文化』編集委員会



## 資源を活かしたものの創りネットワーク エコマテリアル株式会社 Eco Material

本社 / 〒799-0721  
愛媛県四国中央市土居町上野甲1525番地  
TEL0896-74-2698 FAX0896-74-5634

東京営業所 / 〒101-0047  
東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4F  
TEL03-5201-3887 FAX03-5201-3712

大阪営業所 / 〒532-0011  
大阪府大阪市淀川区西中島6-7-5アサノ第1ビル202  
TEL06-6306-1123 FAX06-6306-1122

合弁会社 / 韓国トヨカラー株式会社  
ソウル市杉川区加山洞233-5番地  
窯業技術員ベンチャー館304号

合作会社 / 大連景観建築材料有限公司  
中国大連市金州区三十里堡鎮 友蘭工業区

Home Page <http://ecomate.am/>  
E-Mail [info@ecomate.am](mailto:info@ecomate.am)

## 編集後記

例年にない猛暑が続いていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。「景観講座」は前半の3回が無事終了し、9月から後半に入ります。この「景観文化」はカラー版を継続していますが、TDA (景観デザイン支援機構) ってどんな人達がやっているのかを紹介すべきだ。との意見から、モノクロページで会員プロフィールを断続的に試みることになりました。連携、交流、広報などにご利用いただくと幸いです。



2010-09-01

## 目次

- 表紙  
都市景観としての樹木を考える  
(絵・文) / 井上 洋司
- 見開  
TDA NEWS  
TDA 連続「景観講座」～2010年度  
景観講座・上半期概要～ / 曾根 幸一
- 見開  
海外ランドスケープ事情  
『韓国「ブックシティ」における都市  
デザインの実践的試み』 / 倉田 直道
- 裏表紙  
景観文化Q&A  
「ショッピングセンター」  
 / 『景観文化』編集委員会
- 裏表紙  
事務局だより / 八木 健一
- 裏表紙  
景観ビジネス最前線  
 / エコマテリアル(株)
- 別冊  
景観コラム  
「正会員紹介 Part 1」

# 景 / 観 / 文 / 化

NPO法人 景観デザイン支援機構 けいかん・きこう <http://www.tda-j.or.jp>



## 都市景観としての樹木を考える

ここ、パリのボーージュ広場はルイ王朝様式の建築群で囲まれ、マレ地区の中心的な市民広場である。何列かの四角に整形された木が整然と広場を囲み、周辺の建築物を巧みに取り込みつつ、強い太陽光線をしなやかに遮り、心地よい空間を市民に与えている。なによりも下枝の高さが一定なので、まるで大きな緑の天井をもつ公園のように感じる。

ところでよくよくパリの樹木をみると、主要な観光拠点の周りは四角に整形された樹木が多い。また一般の街路樹等もほとんどが下枝の高さが揃っている。枯れてしまった街路樹の補植樹も、しばらく後には下枝が揃うような若木が植えられている。そのため、車からの視距もしっかり取れ、信号、広告物、フラッグなどの統一的装飾物などが、一定の秩序の下でそれぞれの役目を適正に果たしている。

都市樹木のある種の規則性は、都市の歴史の長い国では常識なのかもしれない。中国の西安で、新設道路を見たとき、若木が高さ約3.5m程のところで、きれいに切り取られ、まるで杭が一定の間隔で突き刺してあるような光景を目にした。転じて古いメインストリートを見ると、その高さ約3.5m程の位置ですべての街路樹が枝分かれをして、その枝を縫って架空線が走り、街路樹として整然と佇まいを整えていた。ここにも、ある一定の生育ルールが街路樹にある訳だ。

翻って、我が国の街路樹はそのような認識で植えられているのはごく一部で、大半が真っすぐではあるが、下枝の揃っていない樹木が多い。別にかの国のルールをそのまま持ち込めとは言わないが、街路樹を都市景観の重要な要素と考えるなら、公共樹木のルールやその生産方式などを考える時が来ていると思う。

TDA理事 井上 洋司

## TDA NEWS

TDA 連続 「景観講座」  
～ 2010 年度景観講座・上半期概要～

TDA 副代表理事 曾根 幸一

いま都市計画の領域では地域主権が叫ばれているが、首都である東京は自由経済のもとに巨大建築が並び立ち、まちづくりが進化する一方でモノクローム化も進んでいる。今年も地域主権よりもまずは地区主権からという観点で、地域を特化して街の活性化や保存に結びつけようとする東京のまちづくり運動に焦点をあてる講座を企画した。ここに紹介するのは前半の「神楽坂」「お茶の水」「代官山」のまちづくり活動の報告である。



### 1 「神楽坂」

路地と坂道が人を癒す粋な町の特長



**山下 馨**  
NPO 法人粋なまちづくり倶楽部常務理事・山下馨建築アトリエ

神楽坂は江戸時代からの区画がそのまま残され、坂と路地に彩られた貴重な地区である。


明治期の毘沙門様、花街、製紙工場、軍用地、大正期の老舗、文芸活動、戦後の「芸者ワルツ」など、この街はかつての繁栄と翳りを「路地」に求めながら時代の風を発信し続けてきた。日・仏の文化が交わるのもこの街の特長である。この講座は新たな賑わいの創出に挑戦し続けているNPO「粋なまちづくり倶楽部」の事務局長をされている山下薫さんをお願いした。この地区の最近のまちづくり活動はすでに13年におよんでおり、その経緯は「神楽坂キーワード集」に収録され、2010年には第二集「粋なまちづくり、過去・現在・未来」も発行されている。話題はソフト、ハードを含めて実に多く、まちづくりの会も一つだけではない。しかし焦点は街のインターフェイスとなるヒューマンスケールを持つ「路地」の保存、活性化にあるとわかってい。マンション事業という巨大な高層建築の出現や、高次インフラによる地区の分断は確実に地区景観を変貌させコミュニティ

を分断するに違いない。こうした動きに待ったをかけ、地区住民や商店街とこの街のありかたを考え続けているのが山下さんたちである。「路地」の価値とマンションの出現問題では東大の都市工学科も巻き込んでシンポジウムも開かれている。


最近では地区主権のまちづくりに「地区計画」を活用しガイドラインを模索している。また、日本ユネスコ協会連盟がはじめた「未来遺産運動」に「路地を中心とする粋な伝統的界限」に登録したことや、文化庁が提唱する登録文化財に新宿区と地元NPOが共同で申請している。豊富な話題を一つの講座で願うのは無茶だったのかもしれない。

### 2 「お茶の水」

お茶の水今昔 - これからの街づくり



**瀬川昌輝**  
千代田区商店組合連合会会長・昌平不動産総合研究所 十



**土田 旭**  
TDA 代表理事・都市環境研究所会長

お茶の水は江戸の初期本郷台地を開削して神田川を通した交点にある。冒頭土田代表理事により、当地の歴史と地理的な解説、つまり日比谷方面の低湿地に分流していた神田川を台地の開削によって方向を変え首都の街を広げて行く様子が紹介され

た。かくして生まれた本郷と駿河台の二つの台地は文京区と千代田区に分かれることになるが、以来学びの場、医療の場の集積地となって発展していくのである。しかしお茶の水には文化・教養の施設群をとりまく有名書店、古本屋、運動具店、画材店等も戦前からあったもので近年大型の業務施設や高層住居の出現で駅や都市基盤の改良も必要になっている。講師の瀬川さんはもともと医学の家系をもつが、本郷・お茶の水に詳しく、とくに不動産経営の立場から独自の哲学を持っておられる。とくにJRお茶の水駅に平行した茗溪通りに立地する瀬川ビルの経営と商店街の今後のあり方から、隣同士になる駅舎のあり方、そして本郷通り、明大通りの沿道の街づくり、表通りと裏通りの関係、交通計画とこれを管理する警察との折衝など、ユニークな考えを披露していただいた。また、区と地元で設置したまちづくり協議会の運営についても、街は自らの地域環境を守るために地域の住民、組合、企業などがお互いの主張を調整し、地元主体で行うべきことを力説された。お茶の水駅はかつて改築構想が持ち上がったことがあったが今日の改修計画で



は構造上極めて高額のコストが必要になるとい。今後の街づくりに期待したい。

なお、この回は講演に先だって「瀬川邸」の見学会をお願いした。この邸宅は明治・大正期を代表する土木学者の古市公城氏の私邸であったが、震災後同氏の娘婿となった医学博士瀬川昌世氏がこれを譲り受けたもので、本郷弓町界隈を代表する近代和風の建築である。以後3代に渡る風流の営みがこの数寄の住まいを形成してきた。とりわけ奥に設えた茶室と庭の苔は見事である。現在邸宅は道路側の瀬川ビルによってガードされた配置となっているが、この建築は当家親族の大西英輔さん（芸大卒）の設計である。

### 3 「代官山」

ヒルサイドテラスがもたらす街の品格



**朝倉健吾**  
朝倉不動産専務理事 十



**元倉真琴**  
東京藝術大学教授・スタジオ建築計画

代官山地域のイメージは横文彦氏設計の「ヒルサイドテラス」を抜きにして語れない。この講座はオーナーである朝倉氏と建築家・元倉氏の対談を通じて、ハード・ソフトを織り交ぜた景観形成や維持につながるヒルサイド方式の街づくりの秘密を探る

## 海外ランドスケープ事情

「ブックシティ」はソウル市から30km程のパジュ地域の約40%の広大な敷地に開発された出版関連企業が集合した大規模工業団地である。工業団地という経済的な機能重視の建物群が集合した味気ない風景を思い描くが、「ブックシティ」を訪れると、近年の建築雑誌で多く見かけるヨーロッパ建築の影響を受けたファッショナブルな建物群に埋め尽くされたその街の光景に圧倒される。「ブックシティ」は韓国における出版文化の象徴を意図した都市づく



りであり、ソウルを初めとする多くの現代都市において失った人間性の回復を目指し、「出版と建築の融合」を標榜する実験的な都市づくりの試みである。

1989年にスタートし、この計画を実現するために「全国工業化開発」と呼ばれる大規模国家プロジェクトの知識情報産業拠点としての位置づけを得ている。出版関連企業のオフィスに加えて、出版関連の総合配送センター、アジア出版文化情報センター、多目的文化研究施設等の建物、複数の映画館、劇場等を併設するショッピングセンター、集合住宅が建設されている。「ブックシティ」建設の目的として、歪んだ都市を生みだしてきたこれまでの都市づくりに対するオルタナティブなアプローチを

提示し、新しいコミュニティづくりの実践を行うとしている。また、本づくりのプロセスは建築づくりや都市づくりに似ており、良い本づくりのためには優れた編集が必要なように、退屈で凡庸な都市づくりを克服するためには都市デザインが不可欠であり、「ブックシティ」と呼ばれる壮大で美しい本を編集する試みであると表現している。都市デザインを実践するために、ソウル国立大学大学院のHwang Ki-Won教授をリーダーとする都市デザイン・チームを組織し、韓国の二人の建築家が、英国人建築家Florian Beigelと他の二人の韓国の建築家が協働して策定した建築のデザインガイドラインに沿って建築のコーディネートを行っている。

## 『韓国「ブックシティ」における都市デザインの実践的試み』

TDA 会員・工学院大学教授 倉田 直道

開発全体は幾つかの地区に区分され、その地区担当のセクター・アーキテクトが任命されている。開発の理念に基づき、個々の出版企業と建築家との契約が交わされ、30人の韓国の建築家と10人の海外建築家が参加し、ガイドラインに忠実に沿って個々の建物の設計を行っており、都市全体が建築の展示場でもある。建物の高さ、敷地規模と建物のボリューム、建物の壁面線についての制限が設けられているが、建築意匠の表現においては積極的に個性を表



現することを奨励しているように覗える。これは、幕張のペイタウンと福岡市香椎のネクサスワールドにおける試みを同時に実践しているようにも思える。また、これまで多くの工業開発が生態系を破壊してきたことに対する反省として、敷地内の周辺河川の支流や湿地帯を保全するなど、エコシティのモデルとしても位置づけている。

この街の印象としては、それぞれの個性を表現した建物から成る街並みが形成されているが、建物の高さやボリュームなどのスケールがコントロールされていることで、思った程違和感がない。一つ一つの建物が個性を表現しているという点では多様であるが、その多くが近年のトレンドなデザインであるという点で均質であり、全

ことにあった。元倉さんはかつて横事務所勤務し、現在は当のヒルサイドテラスに設計事務所を構えている。氏の設計プロセスの説明では、何次かにわたる設計であったこと。時間をかけて設計することで常に前の建築との関係を意識して次の設計がされると言う「連歌」のようなものであったこと。また、素材やスタイルも少しずつ変わっているが、これは設計者が都度最高のものだと考えた結果であること。具体的には建築の高さ、回遊性の確保、都市エレメント（テラス状歩道、サンクンガーデン、小広場）を挿入し、背景の緑を常に意識して「奥性」のある空間を目標に設計が進められたという。が、特に興味深かったのは朝倉氏の事業化の経緯である。「格好いい」といわれるが「1種住専だから3階しか出来ない」のが幸いしているのでは？という冒頭から、槇氏をお願いすることになった経緯、慶応大学の人脈、その後建築、美術、音楽、そして実業家まで、次々と高名な方々が興味を持ち出していった経緯。こうした方々とのエピソードを紹介頂き、彼らの支援があったからこそ現在のヒルサイドがある点。また親族の土地をまとめるという生活型の事業が何次かに渡る事業になった点。都営住宅の立ち退きでは「向かえと同じような建物になるなら私たちは立ち退くべきだ」といった象徴的な出来事があったこと。さらには、猿楽塚の宗教法化の類末や旧朝倉邸の重要文化財指定までの経緯、NPOによる代官山緑の十字路構想など興味のつきない講座であった。


体としてファッショナブルな建物群によるテーマパーク的な印象は否めない。しかし、一つ一つの建物のデザインの質があるレベルに達しているためか、よくあるテーマパーク的な街並みに比べると許容できる気もする。ただ気になるのは、そこで就業・生活している人々の活動が建物の中に閉じ込められており、活きた街としての雰囲気を感じられないことである。都市デザインは、単に街並みを整えることだけでなく、そこで生活・就業する人々の様々な交流活動（パブリックライフ）の場づくり（プレイス・メイキング）でもあるべきだろう。「ブックシティ」の近くに、同じグループによる同様なアプローチの芸術村「Heyri Art Valley」も開発されている。

わが国の景観は、これまで経済優先の中で混乱し、地方では佇まいを失った市街地が社会問題化しています。とりわけ建築や土木施設などの形態・色彩やその大きさには、全体的景観を阻害する要素も多く見られます。また、拡大や散逸を続

けてきた都市をコンパクトなものに戻すためにも、環境に配慮し、街の魅力を掘り起こして活性化を図ることが必要です。それには住民や行政、および民間企業ともに連携して、第三者的な市民感覚で景観デザイン活動を支援し、広く社会

に貢献する団体が必要です。「NPO 法人景観デザイン支援機構」は、まちづくりの経験や実績を多く持つ専門家が主たる構成員です。この会員プロフィールはこうした活動に役立つメンバーをご紹介します。ことを目的としています。(曾根 幸一)


(五十音順)



**内山 興亜 Uchiyama Koa**  
株式会社 緑の風景計画  
東京都世田谷区駒沢 2-6-16 (〒154-0012)  
TEL. 090-7727-9568  
E-mail. sensible@tky3.3web.ne.jp

プランナー

「都市の“空”スケッチ」：物干し台から勇気を出して二階の屋根によじ登り、尻を360度回転させるだけで、屋は家並みの先に森や川の輝きが見え、黄昏には宵の明星が、“空”を仰ぐと降り注ぐ満天の星を見た。“空”はアインシュタインの「四次元時空」、アボットやドイルの「SF世界」そして、宮沢賢治の詩や童話に誘われた「空想力の発露」であった。半世紀たった今も、鮮やかに思い起させるこんな“空”を都市では出会うことはできなくなった。




**金丸 宜弘 Kanamaru Yoshihiro**  
株式会社 環境設計研究所  
東京都新宿区四谷 4-10-1 メイプル花上 20 (〒160-0004)  
TEL. 03-5269-0771 / FAX. 03-5269-0772  
E-mail. kanamaru@kankyo-s.co.jp  
URL http://www.kankyo-s.co.jp

建築設計・都市デザイン及びまちづくり

建築設計に携わる多くの人が敷地主義に走り都市(景観)デザインを語れないことは、わが国の大きな不幸であると感じている。地域との協働に汗を流しつつ、建築の専門家として具体的なデザイン提案をしていきたい。

- 左：街並み模型で検証しながら進める大和市高座渋谷のまちづくり
- 右：市民と協働して完成した川崎駅西口広場のポケットパークとコミュニティ





**小林 正美 Kobayashi Masami**  
株式会社 アルキメディア設計研究所/明治大学理工学部建築学科  
東京都世田谷区代沢 2-22-7 (〒155-0032)  
TEL. 03-3418-7711 / FAX. 03-3418-7800  
E-mail. mkob@gol.com  
URL http://www.koba-lab.com/masami/

建築設計・都市デザイン

敷地を超えて建築の力が与えられる影響力を信じて、まちづくりや都市デザインの世界に、学生と共にどっぷり入り込んでいきます。“Design Solution for Public Interest”をキーワードに、国際ワークショップなどを仕掛けていきたいと思っています。



- 左：各務原市の公園管理棟 (土木学会賞デザイン賞優秀賞受賞)
- 中：国際文化会館の保存再生 (日本建築学会賞業績部門受賞)
- 右：姫路駅北口の駅前広場計画 世界遺産に対峙する玄関口がテーマ





**杉山 朗子 Sugiyama Akiko**  
株式会社 日本カラーデザイン研究所  
東京都文京区本郷 3-5-2 第二田中ビル (〒113-0033)  
TEL. 03-3818-0071 / FAX. 03-3818-0622  
E-mail. akk-21-sugiyama@ncd-ri.co.jp  
URL http://www.ncd-ri.co.jp

色彩計画

日本やアジアの「風土」とそこにある「色」についてもっと多くの人たちと情報交換をし、地域の様々なデザインや生活の場面で活用していく、そんなきっかけをつくる活動をしたいと考えています。その第一歩として「日本全国見て歩き」をめざし、最後に残ったのが山口県。噂の黄色いガードレールを、直に見るのが直近の目標です。

- 色彩は時代の価値観とともに変化しています。未来の構想には温故知新も重要なアプローチ。歴史を踏まえて、次世代への提案を考えています。



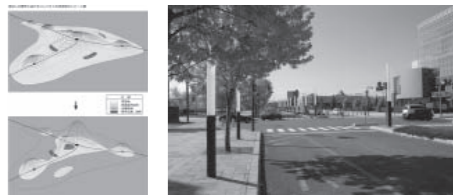



**高見 公雄 Takami Kimio**  
法政大学デザイン工学部/株式会社日本都市総合研究所  
東京都千代田区富士見 2-17-1 (〒101-0062)  
TEL. 03-5228-1438  
E-mail. takami@nihon-toshi.co.jp

都市デザイン、市街地整備

長い間、全国の駅前など拠点形成にかかわる業務、広域計画、国の年整備関連施策検討などにかかわってきた。現在進行形で、国の都市整備関連の施策検討や全国の市街地整備、まちづくりの実務に関わりながら、その経験を大学の教育や研究の中で活かしていきたいと考えている。

- 左：市街地集約のイメージ
- 右：駅前拠点地区のデザイン (帯広市)






**田淵 照久 Tabuchi Teruhisa**  
株式会社 コトブキ  
東京都千代田区神田駿河台 1-2-1 (〒101-0062)  
TEL. 03-5280-5418 / FAX. 03-6865-5214  
E-mail. tabuchi\_t@kotobuki.co.jp  
URL http://www.kotobuki.co.jp

ストリートファニチャーなどの製品開発

1970年に大阪万博が開催され、その頃より都市の快適性をサポートすべく「ストリートファニチャー」のコンセプトが誕生しました。人々の身体が直接触れるベンチ、シェルター、都市サインなど、それぞれの地域の自然と文化を反映した素材・形を景観デザインに生かす事。環境と安心・安全に寄与できる製品の開発、それらの「ものづくり」に開発から流通まで係わって参りたいと考えている。




**中村 信吾 Nakamura Shingo**  
湘南ビーチスタジオ  
神奈川県中郡二宮町二宮 1208 (〒259-0123)  
TEL. 090-3438-8067  
E-mail. dw2y-nkmr@asahi-net.or.jp

都市・空間演出デザイン

土木や建築が空間の構築を目的とするならば、都市・空間演出デザインは空間の創出を目指します。長年、様々な土木技術者や建築家と共に多くのコラボを展開してきました。今後もデザインスパイス的な立場で、都市景観の魅力や個性のアピールに努めていきたいと考えています。

- 左：African Architect Project-1 自然形態に学ぶ景観考
- 右：African Architect Project-2 自然形態に学ぶ景観考





**宮沢 功 Miyazawa Isao**  
CORO 環境デザイン研究所  
東京都杉並区井草 5-12-9 (〒167-0021)  
TEL. 03-3390-7653 / FAX. 03-3390-7653  
E-mail. coromiya@bk9.so-net.ne.jp

環境デザイン

景観は、それを構成する多くの要素をトータルにデザインすることにより、本来の景観デザインとしての目的を果たせる。トータルに考えられた質の高い景観デザインは、人の記憶をつくり、人格、品性、文化を育み平和で豊かな世界を可能にする。

- 左：富山ライトレール、個性化壁電停とのどかな沿線風景
- 中：市内環状線、城址公園、街路、そして車両の風景
- 右：歩道、車道、街路灯、ベンチ、植栽、電停、車両が作る新しい風景





**吉田 慎吾 Yoshida Shingo**  
有限会社 クリマ  
東京都目黒区上目黒 1-4-2 惣秀ビル 3F (〒153-0051)  
TEL. 03-5773-4670 / FAX. 03-35773-4671  
E-mail. info@climat-color.net  
URL http://www.climat-color.net

環境色彩計画

街の色はお化粧ではなく、そこに暮らす人たちの意識が表れるのだと思う。外側から施す化粧ではなく、健康な肌をつくるために、環境色彩計画は街の暮らしと深く関わる。

- 左：幕張ベイタウン色彩計画…デザインコラボレーションによるまちづくり
- 右：八王子市色彩ワークショップ…葉の色で染めた公園遊具

